

第17回 左京フォーラム

安倍改憲案と わたしたちの平和構想 — 9条論の再創造 —



日本国憲法の施行から70年。安倍首相は戦争放棄と戦力不保持をうたった憲法9条について、1項2項は残しながら、自衛隊の意義と役割を書き込む改憲案を秋の臨時国会にも提出するとの考えを打ち出しています。戦争する「普通の国」への道をひた走る安倍政権に、どう対抗するのか。9条が持つ普遍的な平和主義の原理から考えたいと思います。

2017年 **7月30日(日)** 14:00~16:00

京都大学 人文科学研究所
本館 4階 大会議室

申込不要 入場無料 (会場で有志のカンパを募ります)

※休日施設の関係で 14:30までにお入りください

君島 東彦

立命館大学国際関係学部教授 (憲法、日本平和学会会長)

きみじま あきひこ 憲法9条を人類史の中に位置づけて、活かすことを課題とする。最近の論稿として、「六面体としての憲法9条・再論」『立命館平和研究』18号(2017年3月)等。

講師の君島氏は、日本国憲法の平和主義の原理を平和学の視点や東アジアの平和、グローバルな立憲主義などの観点から考察。憲法9条は世界・日本・沖縄の「民衆とともにある」ととらえ、人類がたどってきた平和思想に位置付けてきた。自身が「NGO非暴力平和隊」の国際的活動を展開。武力に依存しない社会をめざす世界のNGOとともに、主権国家体制を超える次の世界を構想する。その点で「9条の思想は人類のものである」とする。軍拡が軍拡を呼ぶ安倍「改憲」に対置する平和構想を指し示す。

